

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

NO. 365

2026.7.5

学 力 研 発 行

常任委員長 岸本ひとみ

ペイペイ銀行うぐいす支店 普:3607141

8月1日に学力研の全国フォーラムが開催されます。午前中の岡本美穂先生の実践報告や、新井紀子氏の記念講演ももちろん楽しみですが、午後には学年別講座&分科会があります。参加される皆様には、ぜひ午後の学年別講座&分科会も楽しみにしてお越し頂ければと思っています。

私自身、愛知から大阪まで全国フォーラムに参加し続けて十数年ですが、各学年に分かれて講座をしたり意見交流をしたりするので、より具体的で実践的な内容について学ぶことができる貴重な場として、学年別講座をいつも楽しみにしていました。講座をする側になってからは、来てくださる方にとって少しでも有意義な時間となるようにと、自分の実践にも一層力が入るようになりました。

今号では、「学年別講座&分科会特集」ということで、各分科会の提案者1名に紹介記事を執筆してもらいました。講座の内容について少し知る機会になりますので、ぜひお読みいただき当日を楽しみにしていただければ幸いです。まだ参加を迷われている方は、ご自身の担当される学年の記事を読んで、興味をもってご参加頂ければ…と思います。大阪でお会いするのを楽しみにしています。(堀井)

CONTENTS

◇特集 学年別講座&分科会◇

1年生 指算からマス計算へ～念頭操作ができる1年生に育てる～	岸本ひとみ	2
2年生 来てください！全国フォーラム 二年生部会と楽市楽座	鈴木基久	4
3年生 「書くこと」でつながる国語の授業づくり	吉田雅直	6
4年生 「大切なことは何度でも」～困難なクラスで見た子どもの困りごと～	小川慶子	8
5年生 いろんな子どもがいる…高学年でよく見られる子どもの姿	堀井克也	10
6年生 総合的な学習の時間	加藤英介	12
家庭塾・中高合同分科会「書くこと」が支える学力と人生	阿久澤恵子	14

◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える90「意欲格差」に負けない！公立小学校へ	岡本美穂	16
考える力をつけるための授業の組み立て方③映画を楽しむことも科学的知識が必要	荒井賢一	18
教科書「を」と「で」で教える・学ぶ 社会歴史授業4 4時間目「むらからくにへ」	深澤英雄	21
「先生のための学校」誌上 開校	久保齋	23

常任委員長・事務局だより	26
学力研カレンダー	27

全国フォーラム 1年生講座(算数) 指算からマス計算へ

「念頭操作ができる1年生に育てる」
いろえんぴつ 岸本 ひとみ

一 資格差の大きい学年

入学当初の1年生は、4月生まれと3月生まれとは全然違います。また、家庭環境や保育環境によっても、できること・できないことに大きな差があります。いっしょなのは、6才で入学してくるということぐらいです。

算数でいうと、10本の指を自由に操って、スラスラ指算ができる子どももいれば、薬指と小指が別々に動かないため、9と10の弁別がついていない子どももいます。1学期は「10までの数」を丹念に扱って、合成と分解が自由にできることを目標に指導を進めました。どこの学校でも、計算カード練習までが、1学期の課題となっています。長い夏休みの間に、全然練習していなかったり、カードが散逸してしまったり、いろいろと困ったことを抱えて2学

期がやってくるのです。

3つの数の計算

$$5 + 5 + 4 = 14 \qquad 14 - 4 - 5 = 5$$

⑩

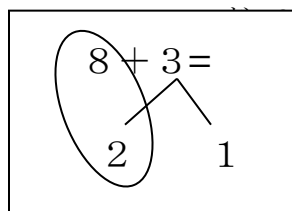
⑩

簡単なようで、難しいのが、2学期すぐに出くる3口の計算です。レベル1は足し算2つ、引き算2つですが、これが、加減算が混じると大混乱します。それを防ぐためにも、最初に補助数字をきちんと書くように指導します。ここで、補助数字を入れる練習をしておくと、繰り上がり・繰り下がりの補助数字につながるので、大事なポイントです。計算カードも、加減算ミックスを入れておくとよ

り効果的です。

繰り上がり・繰り下がり

啓林館の教科書では、10のまとまりを作って、残りの1を足す(減加法)になっています。ここで、先ほどの3つの数の計算で修得した、加減計算ミックスが生きてきます。10ひく8は2。3ひく2は1。1



、1年生のこの時期の子は、かなり複雑な計算をすることになります。ここで、大人の感覚なら何てことないの、ブロック操作をしなかったり、補助数字を書かなかつたりすると、大混乱が

起きてしまいます。

- ・ 1時間 ブロック操作と唱え方
- ・ 1時間 ノート指導
- ・ 1時間 唱え方と練習問題
- ・ 1時間 ノート指導
- ・ 1時間 練習問題のみ

ノート指導

教科書では、2時間程度で念頭操作ができるような扱いになっていますが、なかなかそこまでは進めません。

繰り下がりの同様です。引き算の方が難易度が高いので、4時間扱いでやつと練習問題に入れる、というところでしょう。

気をつけないといけないのは、10月初旬に繰り上がり、11月初旬に繰り下がりを行うようにしないといけない点です。行事の多い2学期ですから、あわてて短期間で、この両方を詰め込んでしまうと、3学期になって結局また、ブロック操作からやり直すということになってしまいます。そこは、教科書や指導書の計画は、的を射ています。

習熟その① 計算カード

めくり方も堂に入ってきた10月ですから、練習も楽しんでできるようになっているはず。ここでも、スモールステップで、一度の検定は15枚程度の設定にすると、負担も軽くなりますし、家庭での

宿題としても、短時間で済ませることができそうです。

① $9 + \square$ と $8 + \square$ の15枚

② $7 + \square$ と $6 + \square$ の13枚

のようにすると、子どもでも組み立てることがができます。

引き算の場合は、

① 11 と 12 の15枚

② 13 と 14 の11枚

というようにします。どちらの場合も、①はカードの数は多いけれど難易度は低く、②③と進んでいくにつれて、カードの数は減って、難易度が高くなっていきます。

(当日は、実際の検定カードもお渡ししますので、参考にして下さい。)

習熟その② プリント(マス計算)

1月末頃になると、計算カードもポロポロになるぐらい練習して、かなりスピードがついてくる子どもが増えてきます。そして、飽きもきます。そういう時は、1学期からの4つの計算のカードを全部ミックスして、4分割にしてタイム計測にチャレンジ

させると、モチベーションが続きます。全員がある程度のスピードで計算できるようになるまでの間の、間もたせです。

最終的に、2月には、横式50問かマス計算に移行します。マス計算は、問題のバリエーションが豊富なので、作る側としてはありがたいのですが、念頭操作が苦手な子どもにとっては、

	12	15
8②		
5⑥		

子どもにとっては、とても難しいです。特に引き算の場合、苦手な子に図のように、10の補数を書いて渡すような工夫も必要です。

最初は、10マスから、少しずつマスを増やしていきます。2段、3段になった時に、どこから引けばいいのかで、戸惑う子どもが多いので、最初は丁寧に急ぐことなく、やり方をマスターするまで、タイム計測はしません。(マス計算用プリントも、当日はいろいろお渡しします。)

最終的には、「昨日の自分に勝つ」を合言葉に、凛々しく2分間チャレンジです。

来てください！ 全国フォーラム 2年生分科会と楽市楽座

鈴木基久

全国フォーラム2年生分科会は、学力研のレジェンド宮川佳代子先生が「つなぐを意識した国語の授業と学級づくり」について、鈴木基久が「つまずきを減らす算数授業と保護者への発信」について実践を報告し、参加者の皆さんと一緒に学んでいきます。

教員生活50年を超える大ベテランの宮川先生の実践をたっぷり聞ける機会はとても貴重なので、報告者である私も、今からとても楽しみにしています。今年度2年生を担当している方も、そうでない方も是非、2年生分科会への参加をお待ちしています。

「つまずきを減らす算数授業と保護者への発信」の内容を紹介します。

算数授業について

① 三角形と四角形

- ・ 形くじ引き
- あるなしクイズのように、図形を当たりと外れに分けていき、当たりはどんな図形なのかを考える。
- ・ 用語を大切にした授業

図形領域では、多くの学習用語が出てくる。学習用語を正しく理解するための実践を報告する。

- ・ ドット方眼紙ハート型の分割
- ハート型を分割してできた図形が何なのかを考える。そのとき、図形を構成する要素に着目することで、図形の性質について理解が深められる。

② 時刻と時間

苦手になっている子が多い「時刻と時間」の単元をどう学習するとい

のかを報告する。今井むつみ著「学力喪失」で紹介されていたことの追実践。

- ・ 子どもは日課表を分かっている
- ・ 「時刻と時間」の落とし穴
- ・ 「時計カルタ」
- ③ かけ算
- ・ 面積図を使った導入
- 保護者への発信について

④ 参観授業

- ・ 学活「基本的な生活習慣とスクリーンタイム」保護者の感想

⑤ 週末の家庭学習情報

- ・ 学級だよりを出せない学校でも取り組める方法
- ・ 保護者アンケートの結果

⑥ 学級懇談会

- ・ 学級懇談会の意義とは？
- 働き方改革の波にのまれて、学級懇談会をなくしてはダメだ。個別面談ではできない学級懇談会の意義を考える。

今年も「楽市楽座」に自作教材CDを出品します。1枚千円です。

今年の新作教材

① 漢字言葉集め2年生～6年生

学習した漢字を使った言葉を集めて、語彙を豊かにするプリント。短文作りにも使える。新出漢字を含む言葉をワークシートに書く。

・合：答えが合う 合計 合体

・細：細い 細かい 細工 細心

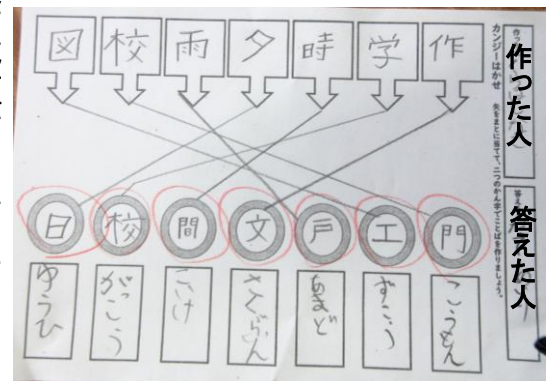
これにより、送り仮名の確認もできる。読み上げ漢字を参考資料として活用することもできる。

② 的当て漢字クイズシート

2年生以上のどの学年でも使える。作った問題プリントを解き合うことで、交流しながら楽しく学習できる。

・問題作成者は、誤字に気を付けて漢字を書き、語彙を増やせる。

・子どもの語彙で問題を作るので、さまざまな難易度の問題ができる。
・友達の問題を解くので、やる気が持続し、何枚も取り組める。



・問題作成者が○つけをするので、子ども同士の繋がりができる。

日常的に「的当て漢字クイズ」に取り組むことで、語彙を増やすこと、正しく漢字を書くこと、友達と繋がりながら楽しく学べることが期待できると感じた。

③ 新力タカナテスト

1枚で50音すべての文字が入っている網羅プリント。絵を見て正しく書けるかチェックできる。全学年でさかのぼり指導に最適。

④ かけ足し算

3年生のかけ算の筆算に必要な計算が身に付く。昨年度の楽市楽座で発表されたプリント。

定番のおすすめ

⑤ 読み上げ漢字

読み先行の学習で語彙を増やすことをねらって開発した教材。

読み上げ漢字のメリットは、

・音読は苦手な子でもできる。

・1枚が2～3分で終わる。

・丸覚えの力を活用できる。

・授業でも家庭学習でも使える。

授業では、みんなで一斉に音読したり、ペアでチェックし合ったりすることができ。

読み上げ漢字には、①おさらい読み上げ漢字（既習の復習用）と②読み上げ新出漢字（光村図書版と東京書籍版）がある。

他にも、2年生分科会で紹介した「時計カルタ」や「参観会のプレゼン資料」などが入っています。

「書くこと」でつながる国語の授業づくり(三年生)

大阪 吉田雅直

学力研に出会ってから「読む力が学力の上限を、書く力が学力の下限を決める」という言葉をよりどころに「書くこと」で読解力を鍛え、子どもたちを豊かにつなげたいという思いから、実践を続けてきました。今回は三年生の物語文を中心に、「書くこと」にこだわった実践報告を行い、「予習課題」への取り組みや「ふりかえり」の書かせ方、発言を通して子どもたちをつなげていくということについて深めていきたいと考えています。特に「ちいちゃんのかげおくり」や「三年とうげ」「モチモチの木」など、二学期以降の物語文について具体的に取り上げたいと思っていますので、物語文の授業づくりで悩んでいる方もそうでない方も、ぜひご参加いただけたらうれしいです。

ノートにこだわることで「書く力」を鍛える

私は、授業の「ライブ感」を大切に、子ども

もたちの「書く力」を育てるために、ワークシートは使わず、板書とノートにこだわった授業づくりを続けています。ワークシートは、子どもたちの思考を助けているように見えますが、授業の流れを固定してしまうので、子どもたちの自由な発想を拾い上げて授業に生かすことができなくなってしまう。字の大きさやバランスにも気をつけて、教師の指示通りのノートに仕上げることは、学習規律にもつながります。ノートで書く力を鍛えることで、教師や友だちの発言をメモしたり、自分の考えをノートに書いたりすることができるようになり、ノートづくりを楽しめる子どもたちに育てることができのです。予習課題で格差を解消し、全員参加の授業へ

状態で授業に臨むことができるのです。子どもたちは、予習課題が発表された瞬間から、「あ、わかった!」「あれかな?」と大騒ぎになっています。次の日の授業でも、自分が考えてきた予習課題を発表したくてうずうずしています。そして、友だちがどんなことを書いてきたのか気になるので、友だちの意見を真剣に聞くようになるのです。

予習課題の最大の利点は「格差の解消」につながることです。授業でいきなり発問すると、瞬発力がある子どもたちだけが活躍し、考えるのに時間がかかる子どもたちは置き去りにされてしまいがちです。これに対し、予習課題は家でじっくりと時間をかけて考えてくるので、どの子どもも同じスタートラインに立つことができ、全員参加の授業を実現することができのです。発表が苦手な子どもたちも、予習課題として書いてきたものを読むだけなので、発表へのハードルがぐっと下がり、「発表できた!」という自信につながるができます。

また、家でじっくりと時間をかけて考えることができる分、はるかに多様な意見が出るので、意見交流の幅が広がり、子どもたちの

思考が深まるというメリットもあります。

何より、国語の授業が「今日は何するのかな?」という受け身から「予習課題、早く発表したい!」「みんなどんなことを書いてきているのかな?」という積極的な姿勢に変わることが予習課題の最大の魅力であり、私はこれこそが真の「アクティブ・ラーニング」であると確信しています。

はじめはなかなか書けない子もいましたが、保護者の理解と協力も得ながら、一年間すべての教材で予習課題に取り組み続けることで、「説明文や物語文の授業は予習するのが当たり前」という感覚が育ち、三学期にはほとんどの子が書けるようになりました。「ふりかえり」で子どもたちをつなげる

毎時間の「ふりかえり」には「誰の」「どんな意見で」「何がわかったか」を書かせることにしています。特に「誰の意見か」を書かせることが重要です。そうすることで、子どもたちは、発言内容と共に「誰が言ったか」を意識するようになり、意見交流が単なる「発表大会」から「聞き合う」時間へと進化するきっかけになります。また、子どもたちが書いたふ

りかえりは、その場で発表させたり、次の時間に共有したりすることで、友だちの意見によつて自分の考えが変わる楽しさや、自分の意見が友だちの意見を深めることの喜びを感じられるようにしています。これが、さらに友だちの意見に真剣に耳を傾けようとすると「学習規律」へとつながります。このように「ふりかえり」の「書かせ方」にこだわることで、意見交流の「質」が高まり、子どもたちが授業の中で豊かにつながっていくのです。

出会いとまとめの感想文を書かせるポイント

単元の学習前に書く「出会いの感想文」と、学習後の「まとめの感想文」を比較することで子どもたちひとりひとりの読解力の伸びを具体的に評価できるようにしています。そのためには感覚的な評価ではなく、キーワードや事実が書けているかなど、具体的な評価規準を設定することで客観的な評価ができるようにすることを心がけています。

出会いの感想文で「わからないこと」を書かせるときは「『がわかりません』で終わらせるのではなく『たぶん』と思います」「もしかしたらしくかもしれません」と自分の考えや

仮説も書かせるのがポイントです。子どもたちにとって「わからないこと」は「何か気になること」や「ひっかかること」なのであり、その文章の「どんな所が」「どのように」気になるのか、ということを言語化させるだけで、子どもたちの思考はぐっと深まるのです。

まとめの感想文では「はじめは」と思っていたけど、学習してとわかったと、みんなで読みを深めたことで、考えが変わったことを書かせるようにしています。また、まとめの感想文はみんなで共有し、意見交流や質疑応答をした後で、「再び書く」ということにも取り組んでいます。この「ひとりで考えて、書いて」「みんなで交流して」「再び書く」というサイクルが、「書くこと」を通して子どもたちをつなげ、思考を深め、読解力を鍛えるのだと考えています。

「書くこと」は、ごまかしの効かない厳しい世界であり、それを鍛えるには膨大な時間と労力がかかります。しかし、一年間かけてじっくりと育て上げた確かな「書く力」は子どもたちの一生の財産になります。ぜひ、この講座で、子どもたちの「書く力」を鍛える楽しさを感じていただければと思います。

四年生講座「大切なことは何度でも」～困難なクラスで見た子どももの困りごと～

春日井学力研 小川 慶子

困難なクラスとの出会い

十月二十日から勤務した学校で出会ったのが四年生。私にとっては十五年ぶりでした。不安な気持ちで着任しましたが、現実には想像以上に厳しいものでした。

○ 注目して話が聞けない

○ 「面倒くさい」の連発

○ 字を書くことへの抵抗(読み辛い文字)指示が通らない・話の内容が正しく伝わらない。書く活動に時間がかかり、半数近くが宿題をやつて来ない。算数テストの得点分布が上位と下位に二極化し、中間層がない状態。どの教科も学習が難しくなるこの時期、意欲も低下していることが課題と捉えました。

どの子も伸びる

「どの子も伸びる」が私のモットーです。「ありのままの自分」が受け入れられようと

ころをほめられたり認められたりして自信がもてること、「やればできる」という経験をすることが、「できた↓うれしい↓もっとやりたい!」という意欲につながる。そんな教室をつくることが担任の仕事と考え実践してきました。

これを支えてきたのは、学力研で培った学力づくりの取り組みです。

最初は書くことから

「書くことは学力の下限を規定する」という言葉を信じて、一日の流れの中で無理なく取り入れるようにしています。

○ 連絡帳を文で書く

○ 宿題プリント(B4両面印刷)を毎日出すこの二つが、十月の四年生には受け入れられず、その後の学級経営の困難さを招いてしまったように思います。なぜ必要かについて丁寧に話しましたが伝わらず、まるで「壁」に

向かって話しているようでした。

子どもたちの言い分

1 連絡事項は、毎日タブレットで送ってもらっていた。

2 宿題は、スケジュール帳をもらってやつている。

「面倒くさいことは、いやだ」

彼らがいう「スケジュール帳」というのは、三年生の時からの取り組みです。一か月の学校行事・テストの予定などが一覧表になっていて、計算ドリル・漢字ドリルの宿題と提出期限が書いてあり、毎日できたかどうかチェックできるようになっています。

ありがちなことですが、提出前に慌てて「溜まってしまった宿題をする」これを毎週繰り返し、提出できればよいのですが、できなければ、そのまま放置していたようです。毎日の家庭学習は学力づくりには欠かせないものです。家庭学習の習慣ができていないか崩れてしまっているなら、作り直すしかありません。四月からやつてきたことを覆すことは確かに子どもたちを混乱させることになりましたが、実態から考えると、変えていく

ことが急務でした。

子どもの困りごと

困難なクラスには困っている子どもがたくさんいます。学習が思うように進められない子・発達に特性がある子・家庭に問題がある子など一人ひとりをよく見て寄り添っていくのが良いことと分かっていました。当時の私はうまくできませんでした。新しい職場で立て続けに行事があり、教材研究をする間もなく授業が始まり…。担任である私に心のゆとりがなくなっていたことが、困難に拍車をかけていました。

担任に心のゆとりがなくなってしまうとき大切なことは、困っていることを誰かに話すことです。私は苦手でした。でも年齢を重ねるにつれて、平気になってきました。今回は、同年の先生・十月十七日まで勤務していた学校の先生・サークルの仲間・学力研の「先生のための学校」のお困りごと相談、そして家族とあらゆる人にしゃべりまわりました。話すことで、心が軽くなり、また、困っていることが整理されるだけでなく、それぞれの立場のかたから、アドバイスがいただけたこと

が、何よりの収穫でした。併せて、「大丈夫、クラスは成長してるよ」と客観的に見た変化を言っていただけだったことも実践を続ける大きな原動力となりました。

子どもたちの個々の困りごとについては当日会場でお話しします。

学力回復は計算から

四年生といえば、算数の「 $\frac{1}{2}$ けた」です。十月には既習事項となっていました。テストをするまでもなく、不安材料がいつぱいの状況でした。手始めに「100マス計算5分間チャレンジ」をしました。速さより正確さを優先し、「昨日の自分に勝つ」を合言葉にかけ算たし算・ひき算の順で取り組みました。結果の「見える化」により、計算練習だけでなく、「やればできる」を実感し、前向きになっていく姿が見られました。その後「わり算忍者」で復習し、「小数のかけ算わり算」に備えました。

筆算については、一問に、「立てる↓かける↓ひく」の手順が何回も出てきます。一か所でも間違うと台無しです。「位をそろえる」などの細かい作業も含めきっちり身につける

には練習が必要です。宿題プリントに印刷するだけでなく、計算ドリル・ミニテストなどで取り組み、時間をおいて何度も取り組むようにしました。

身の回りの整頓

これができないことも学年が進むと不由な生活を送ることになります。タブレットを持ち帰る関係で教室に教科書を置いていくのですが、その管理をはじめとしてプリント類の整理・道具箱の整頓などごちゃごちゃな環境を一掃。定期的に何度も行いました。

みんなでやると楽しい

元気がよく給食をもりもり食べられるクラスの特性を生かし、「かつとばせ 都道府県」で声を出して一体感を味わい、地図帳を使った「地名さがし」や辞書引きで速さを競い、「五色百人一首」やボードゲームでクラスの仲間と交流する楽しさを味わうことができました。

この続きは夏のフォーラムでお伝えします。ご参加をお待ちしています。

全国フォーラム五年生部会

いろんな子どもがいる…高学年でよく見られる子どもの姿

春日井学力研 堀井 克也

◎ あなたのクラスにも、

こんな子どもいませんか？

全国フォーラムの学年別分科会・五年生部会では、算数の授業づくりを中心に話をさせていただく予定ですが、ここでは高学年のクラスでよく見られるであろう子どもたちの姿の類型をいくつか示してみようと思います。きっと、あなたのクラスにもそれに近い子どもがいると思います。

ちなみに私は教員十二年目までは高学年を担任することがほとんどありませんでした。男性教員としては珍しい例だと思っていました。ところが十三年目から六・五・五・五・六（今年度）と高学年ばかり任せられるようになりました。最初こそ「高学年女子こわい…」とおびえていましたが、今ではそんな気持ちはすっかり消えて、高学年ならではのやりがいにつながりはまっています。楽しくて仕方がありません。

◎ 賢いけれど、困った子たち

学校にもよるでしょうが、私の勤務校だと私立の中学校を受験するという子どもがクラスに必ず数名はいます。彼らは豊富な先行学習によって学校の授業で学ぶ内容はほぼ全て知っているため、放っておくと「授業中に知っていることをべらべらと話し続ける」か、「こんな授業は受ける価値が無い」とよそ事を始める「可能性」があります。前者はこちらの発問に対して勝手に答えを言いふらすことで周りの子どもたちの思考の機会を奪いますし、後者は周りの子どもたちに「そうか、この先生の話はちゃんと聞かなくてもいいのか」と暗に伝えてクラス全体の学びに向かう雰囲気損なっています。こういう子どもと接していると、正直大人として腹も立ちますので、うっかり対立関係になってしまうことがあります。そうならないように気を付けたいところです。

◎ 声は大きいけれど幼いリーダーたち

四年生で学級委員をしていたような子ども達が、五年生前期の学級委員に立候補してきます。当人は選挙で選ばれた経験があると自信をもっているのですが、実際にはまだまだ内面が幼く、自己中心的な思考をしていることが多いです。声は大きくてクラス全体に声を掛けて引っ張っていくことはできるので、こういうクラスのリーダーとなる子どもたちをどう成長させていくかが、学級づくりのカギになります。

そのために私が毎年欠かさず行っているのが「大人とは何か。子どもと大人はどこがちがうのか」「リーダーとはどんな存在か」という問いについてクラス全体で考える取り組みです。どちらも明確な答えの無い哲学的な問いですが、対話の中で私も自分の考えを提示します。例えば「自分のことばかり考えているのが『子ども』で、周りのことを考えて行動できるのが『大人』である」とか、「リーダーとは責任を自ら引き受ける人であり、最も汗をかいて働く人である」というように伝えます。その後はそれを実現している子どもたちの姿を探し、見

つけては学級通信に載せたりして全体に紹介していくように努めます。

今年度は持ち上がりで六年生を担任していますが、昨年一年間でしっかり成長してくれた頼れる子が、リーダーとして学級全体をまとめ、引き上げてくれています。

◎ 同じ人とは関われない子たち

高学年になると人間関係のグループ化が進み、固定化する傾向があります。教師も保護者も自分自身がそういう経験をしてきていることが多いため、「高学年ってそういうものでしょう」と思っていることが多いです。しかし、私はそうは思いません。

仲良し同士でくっついていてる子どもたちは、

要は新たな人間関係の構築がこわいのです。不安感から、いつも同じ子とばかり関わっているのです。そして、そうした不安から一緒にいるだけなので、やがてグループ内で人間関係のトラブルを起こし、教師はその対応に追われることになります。ですから私は年度の最初に「親友と言える存在はいてもいい。けれど、クラスの誰とも関わられるようになることが、実はあなた達にとって一番安心で、幸せなことだ

と私は信じています。」と宣言します。そして、前項で述べたのと同じように、人間関係を広げていこうとしている子どもの具体的な姿を探し、見つけては学級通信で紹介したり、時にはみんなの前で喜んでみせたりします。高学年であっても男女関係なく仲良くできることも求めていきます。

子ども達は将来、必ず多様な人たちの中で生きていくことになります。小学生のうちから無理しなくても仲良くできる人の中だけで生きようとしていると、いつか絶対に困ります。ですから、子どものうちに練習しておく必要があるのです。

◎ 静かに黙って沈んでいる人たち

五年生ともなると、四年生までの学習でつまづきを抱え続けてすっかり無気力になっている子どもたちがいます。彼らは自分のできなさと向き合いたくないので、授業中はできるだけ静かに大人しくして、誰にも自分が分かっているように思っています。とを悟られないように息を潜めています。涙ぐましい努力をしていると思います。

こういう子どもたちに、実はあなた達こそが授業の真の主人公なのだというメッセージ

ージを送り、百マス計算や読み上げ計算という取り組みの中で「できた!」という体験を積み重ねていきます。やがて彼らの口から「手を挙げて発言できるようになりたい」という言葉が出てきます。その願いを、みんなの力で叶えていくのです。

◎ いろんな子を包摂して、

どの子も伸ばす算数の授業づくり

全国フォーラムでは、これらの多様な子ども達を包摂してどの子も伸ばす算数の授業づくりについて詳しくお話しさせていただきました。私のクラスにも、いろんな子がいました。そんな子どもたちが授業を通して変わっていく、成長していく姿を見られるのが、教師としての何よりの喜びです。もちろんうまくいったことばかりではないので、一年を通して見つかった課題についてもお話しさせていただくつもりです。

学年別分科会では、五年生という学年にしばって学び合うため、具体的に実践的な内容が多くなります。国語について報告される李先生のお話にも、期待していただきたいです。よい準備をして大阪でお待ちしていますので、ぜひご参加ください。

総合的な学習の時間

加藤 英介

専科として

全国フォーラムでは、六年生の分科会で総合的な学習の時間について話をする予定である。今年度は専科として三年生から六年生を担当している。

「総合って何？」と子どもたちに聞くと「国語とか算数の補習の時間かテストとかローマ字をしていました」という声が聞こえてきた。そこで、「総合はみんなのやりたいうことが叶う時間だよ。何でもよいというわけではないけど：例えば、大治小学校ってどんな学校？どんな学校だったらもっと楽しくなるのかな？」と問いかけた。すると、「楽しい学校がいい」「みんなが笑顔で過ごせる学校がいい」とそれぞれの思う理想の学校像を書かせた。その後、校長先生をゲストに招き、目指す学校を伝えてもらった。

「大治小学校のテーマは『みんな主人公 みんな笑顔 大治小』です。一人ひとりが笑顔になってほしい。そのために、学校で

過ごす中で、授業でも休み時間でも委員会の活動でもどんな場面でもいいから輝いてほしい。輝くとは特別なことではありません。あいさつをしてくれたり、友達を助けてあげたり、下級生にやさしくしたりとささいなことでもあなたは主人公になります。そんな、一人ひとりが輝く学校でありたいですね」と語りかけていた。子どもたちは、聞くことに必死でメモをすることを忘れていた。子どももいたが、心には響いていた。その後、理想の学校に近づけるために、できることを書きだした。書き出したことをどのようにに実現していくかを考える中で「委員会」を活用することになった。

各委員会ごとに集まり、プロジェクト会議を行うことにした。

- ・ あいさつプロジェクト
- ・ 手洗い大作戦
- ・ 教えて委員長
- ・ フラワーブラボー
- ・ 残菜ゼロプロジェクト

などそれぞれの委員会の特徴を生かした取組を考えた。企画については、何度も担任の先生に確認してもらったり、話し合ったりして一か月程度かかった。その後、代表委員会に通して、実行へと結びつけた。

しかし、その裏側で問題も発生していた。実は、委員会の担当の先生や五年生に企画内容や提案の中身を伝えていなかったのがある。中には、伝えていた委員会もあったが、全部の委員会ではなかったことに、代表委員会後、他の先生方から指摘をもらって発覚した。六年生の総合とはいえど、許される状態ではなかった。六年担任と自分で謝り、五年生の先生にもお願いをして企画提案周知の時間を設けてもらった。ぼくの心の中には「先生方にも子どもたちにも申し訳ない。見極めが甘く、想像力の足りなかった自分が一番よくない。」という気持ちでいっぱいだった。それと同時に、多くの人々が助け船を出し、時間を割いて企画を応援してくれている事実も知り、本当にうれしかった。六年生にもその事実を伝えた。すると、「先生は悪くない。わたしたちが言わなかったただだから謝らないで。」とやさ

しく声をかけてくれる児童もいた。

次の日からすぐに企画が始まった。トッパッターは放送委員会。給食時の放送の様子は以下の通りである。

放送委員…お昼の放送をお聞きの皆さん
こんにちは。放送委員会の「名前」です。

今日は最終日ということで、図書委員長にきていただきました。このコーナーは「教えて委員長」普段どんな活動をしているのか、聞いてしまおうという企画です！図書委員長しもみちしようごさん、よろしくお願いします！
願います！

ゲスト(委員長)…よろしく願います！
放送委員…早速ですか図書委員会は普段何をしていますか。

ゲスト…本の貸し出しを行っています。
なるほど、なくてはならない委員会ですね
放送委員…ちなみに今年度、考えている新しい企画ってありますか。

ゲスト…図書室を特別な空間にしたり、絵本の読み聞かせを行ったりしたいと考えています。

放送委員…大治小の図書室の利用者数は、学年にもよりますが、少ないといううわさ

を聞いています。本当なんでしょうか。

ゲスト…はい。実はそうなんです。新しい本や魅力的なポスターを飾る予定です。ぜひ、休み時間や雨の日は来てください。ただ、来られる日は守ってくださいね。

放送委員…最後にみなさんに伝えたいことをどうぞ。

ゲスト…今日は、お招きいただきありがとうございます。図書委員会では、図書室だからこその企画を計画しています。ぜひ、お越しください。

放送委員…それではもうお時間がきてしまいました。ありがとうございました。
おっと、、、ここで、運営委員会の方が到着されました。

というように流れで行った。昨年度までは、毎日同じような内容でお届けしていたため、スピーカーの子どもも大いに盛り上がっていた。「ラジオ放送みたいだったよ。わたしもしやべりたい。」という二年生の子もいた。こうやって、最上級生がみんなを笑顔にさせたいという目標をもって、取り組む姿に、少しずつではあるが下級生もあこがれを抱くことであろう。

全国フォーラム当日には、他の委員会の様子を失敗も含めて、赤裸々に告白したいと思う。きれいごとだけでなく泥臭く行っていることが少しでも伝わればと思う。

僕自身は、すごい先生でも、何か特技をもっているわけでもない。だからこそ、目の前にある課題と向き合いながら愚直に取り組んでいる。

話は変わるが、最近、専科としてピンチヒッターで入る場面が増えている。体調不良で…出張で…など理由はさまざまである。そんなときに考えることは「そのクラスのよさはどんなところなのか、担任の先生が大切にしていることは何なのか」ということである。後日答え合わせをしにくわけだが、これがまた面白い。子どもの新たな一面を紹介したり、担任の先生の細やかな気遣いに気づけたりと自分自身もアップデートできている。休むことすらも近頃はポジティブに受け取れるようになってきた。チーム学校の中で、自分の役割を再確認する日々を過ごし、みなさんとお会いできたと思う。お読みいただき、ありがとうございました。

「書くこと」が支える学力と人生

阿久澤恵子（群馬）

I はじめに
「学力は読むことで獲得し、
書くことで定着する」

学力研で学び始めてから、岸本裕史先生のこの言葉がずっと私の実践の中心でした。ですから、1時間の授業でも国語科の教科経営でも「書く」学習を重視してきました。また、コロナ禍にあってこそその方針は揺らぎませんでした。

II 書くことで伸びた学力 I・4分割ノートで伸びた子どもたち

ノートを使った自主学習は、問題を4〜7回繰り返し返して解く（書く）学習でした。具体的な学習方法だったのを取り組みやすく、多くの子どもたちが継続できました。また、その学習を続けた先輩（広島の本木君）の存在が子どもたちの大きな支えでした。商業高校に進学した生徒は、高校入学後に学力がぐんと伸び、成績カートのコピー

1を送ってくれたほどでした。また、合格ラインすれすれで高専に進学した生徒は、4分割ノートでの学習を続け、1年後にはクラスで一位、2年後には学科で一位になりました。どうやって勉強しているのかと友達に問われ、「ノートに書いて勉強しているだけ」と答えたとそうです。

2・コロナ禍の子どもたち

対話のできないコロナ禍の学習環境の中で、威力を発揮したのは「書くこと」の課題でした。

- ① 小学校4〜6年の学習漢字プリント（蔭山プリント）
- ② わり算A型（時間記録表にかかった時間を記入）
- ③ アルファベット練習（英語担当が準備）
- ④ 総合学習プリント（新聞記事を利用したワークシート）
- ⑤ 読書記録（書名と著者名のみを記入）

子どもたちは自分のペースで無理なく課題に取り組んだので、早

い段階で学習習慣が身に付きました。また①⑤の学習は、小学校の学習内容が多かったため、中学校での学習の土台が盤石になりました。その結果、学校再開後の学習も順調に進み、1年生3学期のテストの段階で高い学力が身に付いていたことが分かりました。

3・国語科学習を通して

国語科では3年間で着実に学力を付けるため、「書く学習」を重視しています。

① ノート指導

授業用ノートは、「大きく、濃く、丁寧に」書かせています。書字力を付けるためです。家庭学習に繋がるノートにするため、私自身も「何をどう書くか」を意識して板書も工夫しています。

② 新出漢字プリント

手作りプリントです。新出漢字の読み（音・訓）、部首、新出漢字を使った熟語（2語）の意味と漢字練習、用例調べ（2例以上）をするようになっていきます。高校での学習を意識した難しい熟語も入っています。最低2時間かかる学習量です。3年間でかなりの語彙を獲得することができま

③ 作文指導

感想や要約、意見文などの学習では、独自に作成した「文章の書き方」プリントを活用して書き方を徹底指導します。テストでは課題作文も出題しました。3年間の作文指導で、子どもたちは書くことに自信をもって卒業していききました。

Ⅲ 「書くこと」は「生きること」

Ⅰ・自己表現と自己開示

中学3年生ともなると、いじめの経験や複雑な家庭環境を作文に書くようになります。辛い経験を開示・表現することで、自分の気持ちを整理し、問題解決に向かう力を得るようです。また、勇気をもって書いた文章は、聞く側の子どもたちの心にも響きます。当然、真剣に聞きます。表現者にとってはその姿勢が自己開示への評価となり、安心感と自己肯定感を得ています。「書くこと」は単なる学習方法に止まらず、人の成長に大きく寄与する行為であることを子どもたちの姿から日々学んでいます。

2・書くことの意義

◆長崎県立大学学長・浅田和伸氏
言葉を豊かにすることは、心や行動の安定に繋がる。小中学校でも、授業その他の活動の中で、

自分の考えや気持ちを文章にしたり、声に出して感情豊かに伝えたりする学習や練習を増やすといいんじゃないですかね。（教育新聞より）

◆臨床心理士・森優貴さん
新生活には「見えにくいストレス」が潜んでいると理解しておくことが大切。その負担感を少しでも軽くするためにすすめたのは、自分の身の回りの変化を書き出してみることに。予め変化があることを把握しておくことは心の準備につながる。

3・ジャーナリング

◆社会心理学者・ジェームズ・ペネパーカ
「エクスプレッシンブ・ライティング」（筆記開示）↓ジャーナリングの元

になっている手法。思っていることを筆記により開示してネガティブな要素や不安を解決するテクニック。

◆公認心理師・藤本志乃さん

紙とペンがあればすぐできる。頭に浮かんだ悩み、辛い気持ちをありのままに書き出し、それによって何らかの効果が期待できる。

◆自閉スペクトラム（ASD）の

今、一番自分を解放できるのは、
女性

頭に思い浮かんだことを書き出すジャーナリングに取り組んでいるときです。

Ⅳ おわりに

「教育は政治に利用されやすい。だから、常に社会に関心をもつ必要がある。」

藤原義隆先生のこの言葉は、教師としての私の生き方に大きく関わってきたことを実感しています。実践を続けながら社会を見てみると、多くのことに気づくからです。

現代は「書くこと」によって自身と向き合い、生きる力を得ようとする取り組みに注目が集まっています。それは、ストレス社会に生きる現代人にとって「書くこと」が生き抜くための有効な手段だからです。また「話すこと」も「言葉にする」という点で、人間を支え生きたる力を与えてくれる方法として認知されています。「言葉にする」ことは教育の現場だけでなく、生きていく上での重要な術です。だからこそ、「言葉にする（話す・書く）」ことを私たちは決して手放してはならないのです。

「いの子も伸ばす」を本気で考える連載 90

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

本研究会を通して、方法論だけでなく、教科書の読み方や歴史について改めて学び直すことができました。そのことが、私にとって本当に嬉しい学びとなりました。SNSでは、授業の進め方や実践例を手軽に知ることができます。しかしその

一方で、子どもの学力を伸ばすというよりも、関心や注目を集めることが目的になっているように感じる投稿も少なくありません。だからこそ、教科の本質や教材研究について深く学べるこの時間を、これまで以上に大切にしたいと思いました。

参加者の李さんも振り返りの中で、「読解記憶という久保先生の言葉から始まり、常に教科書を読むことを意識しました。今までは教科書を読ませていれば良いと思っていました。それはただの音読だったことに気付きました。意味がわかって

教科書を読む。それが記憶に残っていく。どうすれば子どもたちが教科書を読みたくなるか、それをこちらが研究して授業をしないといけないんですね。」と書いていましたが、まさに私自身も同じ気づきを得ました。

これまで「読ませる」ことが目的化してしまい、子どもがどのように読んでいるのか、意味をつかみながら読めているのかという視点が抜け落ちていたことに気付かされました。読解記憶という言葉は、単なる音読と、意味を理解して読むことの違いを鋭く示しており、授業づくりの根本を問い直すきっかけとなりました。

子どもが教科書を読みたくなるようにするには、教師が教材を深く読み込み、その魅力や問いを授業の中でどう立ち上げるかが問われます。意味がわかって読むこと。それが記憶に残り、学びを深め

ていく。読解とは、声に出すことではなく、意味をつかみながら読むことなのだ、改めて実感しました。では、どうすれば子どもたちが教科書を「読みたい」と思うのか。そのためには、教師である私たちが、教科書をどう読ませるかではなく、どうすれば読みたくなるのかを研究し、授業を構成していく必要があるのだと感じました。本日の学びを胸に、これからの授業づくりに生かしていきたいと思っています。

1、大昔のくらしとくにの統一





授業の様子



「ここが弥生時代です。そして、その前の時代が縄文時代です。境目はこのように斜めの線になっています。では、縄文時代のはじまりはどこだと思いますか。ここだと思つところに印をつけてください。」

班で相談して、代表者が前に来て磁石を置きます。子どもたちは磁石を置く前に、まず年表の長さを指でたどりながら、

「メートルがいくつ分になるのか」

「どれくらい前なのか」

と、距離に置き換えて考えている姿が多く見られました。また、教科書の73ページを開き、

「縄文時代は一万二〇〇〇年前だから」と、数字をもとに計算して確かめている班もありました。

このように、子どもたちが自分の考えをもとに予想し、教科書の記述と照らし合わせながら、時間の長さを実感しようとする姿が見られました。

この研究会では、子どもにかえつたようにワクワクしながら、授業について考えることができました。「あの子たちはどんな反応をするのかな」と思いながら準備を進める時間は、久しぶりに新任の頃に戻つたような気持ちで、私自身が学ばせていただく機会になりました。本当にありがとうございました。この年齢になると、自分から求めなければ学ぶ場はなかなかありません。

そんな中で、深澤先生がこのような機会をつくってくれたことに、心から感謝しています。どんな授業になったのか、また報告できるように頑張ります。

映画を楽しむにも科学的知識が必要

「プロジェクト・ヘイル・メアリー」

五月の連休に、映画「プロジェクト・ヘイル・メアリー」を観た。(還暦をすぎるとシニア割引でお得に鑑賞できる。)

上映時間は156分と長いのだが、見ごたえがあり、途中から終わってほしくないな、と思ったぐらいである。

映画はいつも、なんばのTOHOシネマズで観ている。右記の映画が最初に出た頃は、本館で字幕版だけでなく吹替版もやっていたのだが、この時は、別館で、しかも字幕版のみの20:20〜23:10のレイトショーしかやっていなかった。

本館では、「ザ・スーパーマリオギャラクシー・ムービー」や「名探偵コナン」の映画が、何スクリーンも押さえていた。

たしかに「プロジェクト・ヘイル・メアリー」は、子ども連れで観るような映画ではないだろう。(小学校高学年の理科好きな子は楽しめるかもしれないが。)

とはいっても、TOHOシネマズが発表

する世界映画ランキングには、二位に入っていた。(二位は「マリオ」)

「ヘイル・メアリー」とは、「イチかバチかの懸け」「神頼み」を意味する。

映画は、宇宙船の中で、主人公が目覚める所からスタートした。

主人公は、このときは記憶がなく、なぜ、自分がこんな所にいるのか、分かっていない。同乗者の二人は、すでに死亡していた。(彼・彼女らが誰かもこのときは分からないのである。)

TOHOシネマズの「プロジェクト・ヘイル・メアリー」の紹介は以下の通りだ。

未知の原因によって太陽エネルギーが奪われる異常事態が発生。このままでは全人類は滅亡する。この危機を回避するため、世界中の叡智が集結。調査の結果、この現象は我々の太陽だけではなく宇宙に散らばる無数の恒星に及んでいたが、26光年先に唯一無事な星を発見。人類に残された策

は、太陽と全人類を救うための謎を解くことだけだった。

主人公の記憶は、徐々に戻ってくる。

主人公は、中学で科学の教師をしていた。このとき、授業回想シーンの中で、「太陽が食べられている」話が出てくる。主人公の元に、プロジェクトリーダーの女性がやってくる。主人公は元々、分子生物学の教授で、学界で問題発言を言って追放されていたのである。

研究の結果、未知の生物(細菌?)が太陽を含む恒星のエネルギーを食べていることが分かった。ただ、その未知の生物はエネルギーを食べているだけあって、膨大なエネルギー源となり、それを使って、11.9光年先の唯一無事な星へと調査に向かう燃料として使われるのである。

主人公は、そこで、宇宙人と出会い、どうにかこうにか意思疎通し、危機を回避する方法を模索するのだった。

授業「プロジェクト・ヘイル・メアリー」

【板書】よう

「よう、という言葉を書きましよう。」
け書いていきましよう。」

板書させながら発表させていく。

- ① げつよう (月曜) ② かよう (火曜)
- ③ すいよう (水曜) ……
- ④ しょう (子葉・使用・私用)
- ⑤ たいよう (太陽) ⑥ どうしよう
- ⑦ どうよう (同様・童謡)
- ⑧ じつよう (実用)
- ⑨ あめもよう (雨模様)

と例を書きながら、これはありすぎるので、
四文字限定にした方がよさそうだ。

【板書】 □□よう

- ① げつよう (月曜) ② すいよう (水曜)
- ③ もくよう (木曜) ④ きんよう (金曜)
- ⑤ にちよう (日曜) ⑥ たいよう (太陽)
- ⑦ どうよう (同様・動揺・童謡)
- ⑧ じつよう (実用) ⑨ あいよう (愛用)
- ⑩ あくよう (悪用)
- ⑪ いんよう (引用・飲用)
- ⑫ えいよう (栄養) ⑬ えんよう (遠洋)
- ⑭ おはよう ⑮ かいよう (海洋)
- ⑯ かつよう (活用)
- ⑰ こうよう (効用・公用・紅葉)
- ⑱ ざつよう (雑用) ⑲ しんよう (信用)
- ⑳ せいよう (西洋・静養)

- ⑳ どうよう (東洋) ㉑ ちまよう (昏迷)
- ㉒ ばいよう (培養)

まだまだありそうだ。漢字に直させるのはぜひやりたい。

【板書】 太陽について知っていること

毎日、お世話になってる太陽だが、「知っていること」となると、子どもにしろ大人にしろ、偏りが出てくるだろう。

篠原菊紀・監修『考える力がぐんぐん伸びる！ 科学のおんどく』(2024.6リベラル社)に、「たいようもいつかもえつきるの？」がある。

たいようはおよそ十億年前にうまれました。うちゅうにただようちりやガスがあつまってできたとかんがえられています。

たいようは、すいそというものをもちやして光っています。わたしたちがいきられるのもそのひかりのおかげなのです。

たいようはとても大きく重さはちきゅうの33万倍もありますがそれでもいつかはすいそをつかいはたしもえつきる日がきます。いつまでもひかっているわけではないのです。

たいようのじゅみようは100億年とみつもられておりちようどいまはじゅみようのまん中あたりです。人間でいうとお父さんかお母さんぐらいでしょうか。

たいようがもえつきるときは地球をのみこんでしまうほど大きくふくれあがったあと大ばくはつするとかんがえられています。そのときに人間が地球にいるかどうかはわかりませんがちよつとこわいですね。

約五〇億年後の人間(いれば?)が考えればいいことだろう。

【板書】 太陽があること困ること

- ・ 暑い。
- ・ 紫外線が危ない。

などが出るだろう。

【板書】 太陽がないと困ること

これはノートに書かせて発表させたい。

- ・ 植物や作物が育たない。
- ・ とても寒くなる。
- ・ 太陽電池が使えない。

ここで、映画『プロジェクト・ヘイル・メアリー』の映像を一部視聴させる。

さらに、原作のアンディ・ウイアー作、小野田和子訳『プロジェクト・ヘイル・メアリー上』(2021.2早川書房)から、次の文章を紹介する。

「太陽の出力はこれから九年間であつぱりパーセント減少するの。二〇年で五パーセント。これは問題よ。大問題」

「それじゃあ氷河期じゃないか。なんというか……すぐに。あつというまに氷河期になる」

「ええ、ごく控えめにいってもね。作物がとれなくなつて、餓死者が大量に出て……ほかになにが起きるのかさえ、あたしにはわからないわ」

アンダラインを引いた言葉は隠して提示し、予想させる。

今は暑いので、子どもたちは氷河期をむしろ望むかもしれない。

「現代で氷河期が到来するとうなるのか、考えてみましょう。」

思いつくことを発表させてから、YouTubeに載っていたものを紹介していく。

①現在と比べて平均気温が5℃以上低くなつたとしても全く不思議はない。

②全ての地域で一律に5℃程度気温が低くなるわけではない。

③日本は4〜8℃低下。

④北アメリカ大陸の北東部や西ヨーロッパの北部は20℃以上低下する。

⑤常夏の島ハワイはほとんど変化がない。

⑥現在多くの人間が暮らしている土地が奪われる結果になるのは明白。

⑦大量の難民が発生する。

⑧氷期においては海水面が100m以上低下する可能性がある。

⑨日本においては北海道がサハリン、九州が朝鮮半島を通じてユーラシア大陸と陸続きとなり、日本海が巨大な湖となる可能性がある。

⑩少し前に海の底だった場合、農業や住宅地としての利用はすぐには難しい。

⑪陸地が増えたことにより航路も大幅に見直す必要が出てくるため、人間社会は大混乱に陥ることが予想される。

【板書】氷河期を遅らせる方法

要するに、地球を温暖化させていけばいいのだ。

原作『プロジェクト・ヘイル・メアリー』による氷河期を遅らせる方法は、以下の通りだ。（これは映画では行われていない。）

「重要なのは、南極はかつてジャングルだったことだ。何百年ものあいだ、南極はアフリカのように木々が青々と生い茂っていたんだ。しかし大陸移動や自然の気候

変動で凍りついてしまった。南極の植物はすべて死に、腐敗した。そしてその腐敗の過程で出たガスが——いちばんよく知られているのはメタンだが——氷に閉じこめられている」

メタンガスは、温室効果ガスでもある。二酸化炭素よりもずっと地球を温暖化してくれるのである。

ただ、氷河期を遅らせるだけで、最終的に氷河期が来て、人類は滅亡してしまう。

それを救うために、11・9光年先のアストロファージ（太陽のエネルギーを食う生物）に感染していない恒星に向けて、主人公は出発するわけである。

そこで同じように解決策を求めて来ていた異星人と出会い、言語の壁、文化の壁を乗り越えながら、共に解決にあたっていくのだ。

ここまで語って、授業終了。

ほぼ映画の紹介のような授業だが、ある程度、科学的知識がないと、この映画は楽しめないのが分かるだろう。

（映画は科学的部分を端折っているの、映画を観てから原作を読むことをお勧めする。）

教科書「を」と「で」で教え・学ぶ 社会歴史授業 四

第四時間目「むらからくへ」

学力研常任委員 深沢 英雄

一、弥生時代の二時間目です。

教師：食べ物を中心に見てきましたが、縄文時代の集落のようすと弥生時代の集落のようすと違うところはどこですか？
班で相談してみましょう。

（教科書の68ページから70ページに縄文時代と弥生時代の想像図が並べて掲載されています。）



教師：なぜ、弥生時代は争いが



争いのようす (想像図) 物置やぐらやむらのまわりを高い堀、木のさくなどは、集落を守るために設けられたと考えられています。

児童：堀 柵がある
教師：堀と柵は何のためにつくったのかな？
児童：争うことがあって、せめられた時に敵を防ぐため。
（ここで、教科書76ページを見せます。）



③ 人骨にささった矢じり
(丸印が矢じり)

おこっているのだろうか？と問いかけてから教科書78ページを読みます。
米作りが各地に広がると、米作りに適した土地や水、たくわえていた米などをめぐり、むらどうして争いがおこるようになったか。
図を使って、教科書の内容を説明していきます。
争いに勝ったむらのかしらば、ほかのむらを支配する、豪族へと成長し、
遺跡からは、人骨にささった矢じりや、先の欠けた剣が出土し、戦いがあったことがわかります。

教師：今日のめあては、

吉野ケ里遺跡などを調べ、小さな「むら」
が大きな「くに」へと統一されていく社会
の変化を考えることができる

と提示し、その後、教科書を読みます。

やがて、むらより大きなくにをつくる王
があらわれました。

教師：吉野ケ里遺跡の「くに」の名前は分
かかっていないけれど、8つのむらを従えた
王の都が吉野ケ里です。

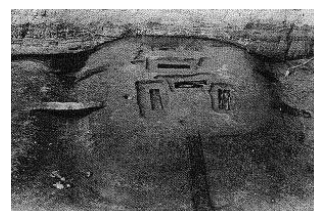


教科書77ページの復元された吉野ケ里
遺跡のようすを見て、何がみえますかと問
います

児童：もの見やぐら・高床倉庫・宮殿・柵な
どの発表が予想されます。



教師：たくさん見つけることができました
ね。69, 70ページの想像図に王の墓らし
いものが描かれているけれどさがしてみま
しょう！



方形周溝墓(ほうけいしゅうこうぼ)と言
います。これどこで見つかったと思う。「東
大阪市バージョンです。〇〇小学校から歩
いていけるよ。瓜生堂遺跡(うりゅうどう)
近くにこういう遺跡がある場合は紹介を
します。自分たちの住んでいる地域にも遺
跡があるということ、歴史をより身近に
感じます。すぐ近くにない学校もあると思
います。その時は、都道府県に上げるとそ
れぞれの時代の遺跡があるので、その遺跡
を知らせる方法もあります。

この遺跡はほぼ完全な形で発掘され、
複数の木棺、土器棺、人骨なども発見され
ました。弥生中期の代表的な遺跡で高校
の教科書などにものったことがあるので
す。」

来月は続きからはじめます。

「先生のための学校」 誌上 開校

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋 2026 7

不滅の一斉授業 東洋館出版

久保新刊 8月1日発売

この本は学力研読本として学力研実践を世に問うために書いた本です。ぜひ読んで、広げてください。

これはこの本の冒頭です。

はじめに

私がなぜこの本を書こうと思ったのか、その理由を最初にお話しします。

私は2007年から学力研の仲間の先生方とともに夏休み明けの9月から翌年の2月までの6か月間、月1回土曜日の午後半日を使って「先生のための学校」を開講し、今年で20周年を迎えることとなりました。この学校は学力研の現役の先生が講師を務め、初任教師から学び直しを求める中堅

教師までを対象に「どんな初歩的なことでも質問できて、それをなぜそうなのかがつかり学べて、自分の実践をみんなに聞いてもらえて、みんなでワイワイしゃべれて『教育とは何か』『授業とは何か』という本質的なところまで深められる、そんな“先生による先生のための学校”をつくらうよ」というコンセプトで開校した、現役教師が運営する学校です。

この取り組みの中で、私は「先生のための学校」の校長として実践へのコメントを行ってきました。そんな中「久保先生の話は技だけになって、なぜそうなのかよくわかる。何か哲学のようなものがあつて話を聞くと、私も頑張ろうという気になる」と言っていたことが多くありました。そんな時、私は「実践の方法だけでなく、その半歩先、半歩深める論理が先生方のやる

気を起こさせる源だ」と確信するようになったのです。

それ以来、私は「先生のための学校」のテキストとして、また全国の学び直しを求める先生方にと7冊の本を出版し、クラスづくり、授業づくり・職場づくりの実践と半歩深める論理を提案してきました。そして、その一冊ごとに学力研の若い先生方が私の提起した実践を追実践して検証し深めていただき、今日に至っているのです。

今の教育現場は厳しいのです。困難は山のように蓄積しています。しかし、この困難を乗り越えていく道はただ一つしかありません。それは私たち小学校の教師が『初等普通教育の教諭』『初等普通教育の専門家』としてその権能に目覚め、初等普通教育の専門家として自らを輝かせ親と子どもたちから信頼と尊敬を克ちとり、教師同士が互いに初等普通教育の専門家としてその権能を認め合うこと以外はないのです。

私に言わせれば、先生方の実践はいいところまで行っているのです。あと半歩踏み込めば、あと半歩深め理論武装すれば、親の信頼を得、専門家としての輝きが増すの

です。あと半歩踏み込めば共感が生まれ、教育がクリエイティブなものになり、職場は輝き出すのです。

この本はそんな半歩の深めのためのヒントのような本です。中堅の先生方が自分の実践を振り返り、学び直しされるための他山の石ととらえて活用いただければ幸いです。

本書は三つの部で構成されています。

第一部 「不滅の一斉授業」では、普段日常皆様が行っている一斉授業を教育における不易と流行という観点から、今流行りの「反転学習、自由進度学習」と対比することによって「一斉授業とは何か」を明らかにしています。

三章では、「よい授業をするにはよい授業をする子どもを育てなければならない」という視点から学習規律の確立の問題を五つのステップで説明しています。四章では「愛することを教える」授業づくり クラスづくりという観点から、愛されることばかりで育ってきた子どもたちに「人を愛すること」を教える重要性について話したいと思います。

五章では教師が一斉授業の技をあますところなく発揮し、子どもと親の信頼を得て、授業づくり、クラスづくりに取り組んでいくための必要条件である「教師の権能」の大切さについて述べていきます。六章では主体性教育と主体教育の違いを自治の萌芽という点から論じています。第一部は「一斉授業」を取り巻く状況とその優位性について明らかにし、自信をもって日常行っている一斉授業の更なるブラッシュアップを提案する部分です。

第二部「教科書の読解記憶・論理の記憶」では、学力格差がなぜ起こるのかを授業そのものの中に見つけ改善の方法を提案するものです。教科書の学習は集団的に行われているのにその記憶行為は子どもたちのそれぞれに任せられ自己責任で行われている。これが学力格差の要因であることから、授業を集団学習に留めず集団学習・集団記憶まで含めた授業システムに高めていこうという提起です。「頼りになるのはお隣さん」の取り組みや「〇〇満点大作戦」など学力づくりで最後の最後まで共同するクラス

スづくり仲間づくりの実践の提案です。

二章では学力の要である読解力をどう育てるのか、三章では国語の市販テストで満点を取らせるための逐語的読解の方法を、四章ではその逐語的読解を真の読解力へ進めるために乗り越えさせるための二つの壁について、五章の「読解力を伸ばす国語授業」では国語授業を通して一斉授業の三種の神器である「発問、板書、ノート指導」について述べ一斉授業の原則について提案しています。六章では小学校教育の避けて通れないもう一つの課題である漢字学習を「苦役」から「歓喜」へかえる「つぶやき漢字ドリル」の光明について論じ子どもたちの共同を保障する教育技術開発のヒントを示したいと考えています。

七章では社会科理科の教科書で読解記憶を高めるといふ観点から、問題づくり、教科書の丸写しで子どもたちの記憶力を特に論理の記憶をどのように集団で高めさせるかを「社会理科満点大作戦」を通して提案していきます。社会科理科の教科書は図や表が入った説明文の宝庫であるという視点から学力回復の突破口と位置づけ、究極の学

習方法である「ノートと鉛筆」での問題づくりとしてその実践を展開しています。

八章では「先生問題で数感覚と読解力を高める算数科」ということで、教師が授業の最後に先生のオリジナル問題を出すことで算数授業をリアルでキラキラ輝く実践に変える方法を提案しています。現代の算数授業が発表することに傾き過ぎている今日、算数の従来の楽しさである解き合う喜び、共同して解き合う喜びのある算数授業への転換を示す実践を提示します。

二部のコンセプトは「子どもは賢いから百点をとるわけではない。子どもは百点をとらせるとなぜか俄然賢くなる」という視点から百点をとらせる原理と方法をもとに行った実践をその半歩深い理論とともに提示したものです。一つでも二つでもここに示したアイデアを活用して明日への展望を切り開いていただければ幸いです。

第三部「予習展開による授業づくり クラスづくり」では「一日一問！教室に予習文化を 予習による教育改革」をという主張で、教師が一日一問、一教科で予習を出

すことで子どもたちの明日への楽しみ、話題を提供して教室に予習文化を演出することを進めています。「予習には決まった答えがない。これが子どもを変える」が大きなポイントです。

二章では、「書くことを教科学習の中核に、古典的読解力の育成」ということで、普通は書くことで確かな学力をつけているのですが、予習することで、「書いて論議し、再び書く」という究極の学習方法を実現する実践を提案します。三章では、子どもは予習の方法を知らない。だから教師が予習の仕方を教えるという観点から二つの予習方法「中心課題の予習と独り読み深めの予習」を教える実践とそれを活用した授業方法を述べてみたいと思います。四章では予習展開による物語文の授業について「ごんぎつね」を取り上げ、予習展開で授業を変え、教室を変える実践を報告します。

第三部のもう一つの特徴は、「予習に取り組めば、あなたの授業は劇的に変わる」ということで子どもたちに予習を指導するとだれがやっても授業の質がワンランクアップします。半年後の「公開授業」をどう

しようかと悩むとき、半年かけて、予習によってよい授業をする子を育成する観点で努力すればその成果は参観者から賞賛の声がかかること請け合いです。

二〇〇一年 NHKスペシャル 二一世紀 日本の課題「学校を変える・問われる教師の力」で私の在籍した京都の新林小学校の実践が取り上げられました。その時の学校改善の目標が「・基礎基本の充実・授業改善・学習規律の確立」でした。それ以来私はこの三本柱の取り組みを学校が変わってもずっと追究し続けてきました。この三本柱の取り組みは私自身の研究課題となっていたのです。それ以来二六年間、職場の先生方と、学力研の仲間と練り上げてきた実践をこの本にまとめました。この本が先生方の実践の一助となることを祈念しています。

私の今までの主張を新たな視点から練り上げた著作となっています。今年のフォーラムの会場で初売りとなりますので、手に取ってご覧ください。

局長だより 7月

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ

○広場は全国フォーラム特集

今月号の広場は、全国フォーラム直前号です。各学年別講座の提案者が、それぞれの報告の一部を紹介するという特集です。紙幅でご覧になるのもいいですけど、やはり対面で、直接聞いていただいたり、質問していただいたりすると、より学力実践のエッセンスがわかっていただけたらと思います。

また、資料もたくさん提示されます。その使い方に込められた、子どもへの思いや、細かな配慮などにも触れていただけたらと考えています。今月号を読まれて、8月1日のスケジュールを開けようとお考えいただけたら幸いです。

○申し込みは2通り

多くの方に申し込みただけるよう、2通りの申し込み方法をとっています。

★Google foam

こちらは、Gメールアドレスを



Google foamで

登録していただき、申し込みして下さい。

★こくちーズ



こくちーズで

こちらは会員登録が必要です。ただ、学力研の学習会には、こくちーズでお知らせすると、一度登録されると便利です。

○定員は200名です

会場の定員は200名です。当日おいでいただいても、事前申し込みの方が多いと、参加いただくことができない可能性もあります。早めにお申し込みをお願いします。

◇事務局だより 岡本 美穂

今年も全国から多くの先生方が集まり、「子どもが自力で学び続ける力」をともに考える一日になります。

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

8月1日(土)

全国フォーラム

今年の全国フォーラムには、『シン読解力』の新井紀子先生が記念講演として登壇されます。AI時代を生きる子どもに必要な「自力で学び続ける力」。その土台をどう授業で育てるのか――

今、全国の先生が最も知りたいテーマを、第一人者から直接学べる貴重な機会です。

テーマ「教科書とノートでどの子も伸ばす」できた！わかった！つながった！

■実践報告

「言葉にこだわる1年生の思考を支える板書とノート実践」

■記念講演

「自力で学び続ける子どもに育てる」『シン読解力』の土台を育てる 新井 紀子氏

岡本 美穂

■アピール

久保 齋(学力研「先生のための学校」校長・京都)

■各学年講座、

中高・家庭教育分科会

2学期の授業づくりに直結する、実践的な学年別講座を多数用意しています。

■昼休憩・楽市楽座

授業ですぐ使える教材・教具が並ぶ人気コーナーです。

対面で集まると、学びは深まるだけでなく、つながりが生まれます。休憩中の何気ない会話講座後の「うちのクラスでは…」という情報交換。その一つひとつが、明日の授業を変えるヒントになります。全国フォーラムは、全国の先生と「同じ空気を吸いながら学べる」貴重な場です。

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2026年 7月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

7/

- 24 (金) いろえんぴつ (加印) 17時半～ コミュニティーセンターおおべ 岸本 090-9117-6330
24 (金) 春日井学力研 17時半～ レディヤン春日井 山口 080-6904-1697
24 (金) 伊丹学力研 18時半～ 伊丹市役所横サイゼリヤ 前田 090-9715-3830
25 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp
オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

他サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等のご連絡ください。

- みなみ学力研 9時45分～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
- 社会科実践研究会 深澤・李

《全国キャラバン等 今後の予定》

- 学力研 1年生講座 8月29日(土) 13:30～14:30 オンライン
- 学力研 全国フォーラム 8月1日(土) 9:45～ 1日集会 エルおおさか
教科書とノートでどの子も伸ばす～できた！わかった！つながった！～
記念講演 新井紀子氏
 - ・ 実践報告 岡本美穂
 - ・ 学年別講座&分科会

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一	E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp
李 詩愛	E-mail iwamotoshie@gmail.com
堀井 克也	E-mail katsuya4k1h9@gmail.com
古東 秀一	E-mail kohigasi1201@gmail.com